

日本映像学会第45回大会 研究発表(研究3c)

小津安二郎作品の形式システム再考
—『晩春』『麦秋』『東京物語』の構造分析—

2019年6月2日

前川道博
長野大学企業情報学部

小津作品の形式システム再考

- 1984 (昭和59) 年度早稲田大学大学院・修士論文
『小津安二郎作品の形式システム研究
—『晩春』『麦秋』『東京物語』の構造分析—』
- 『小津安二郎 東京物語』デクパーージュ採録
(1984年、リブロポート刊)
- その後の世界的な小津評価の高まり
- メディア環境の進展による研究方法の可能性

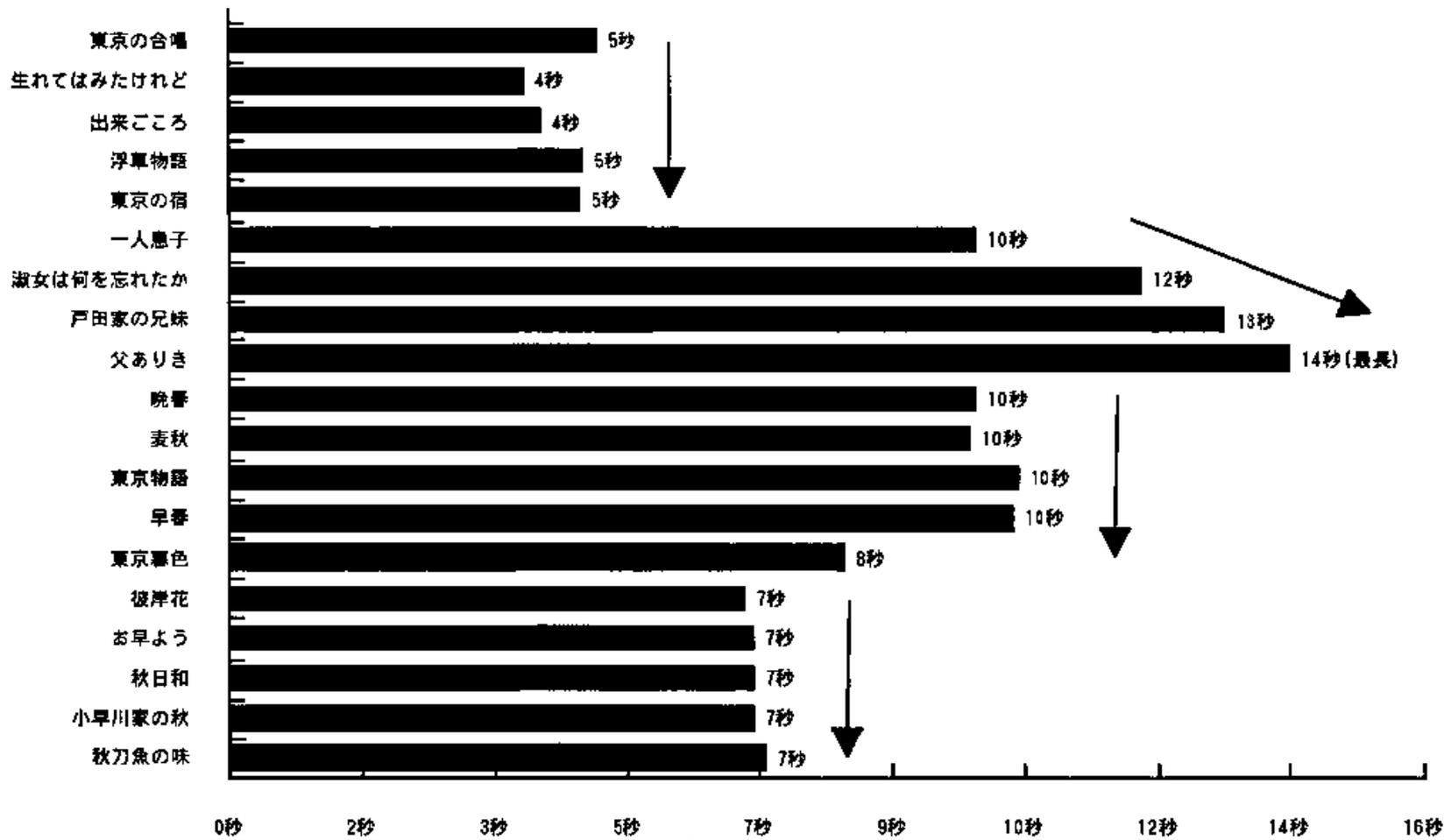


35年ぶりの研究再開

小津作品・再評価の視点

- **スタイル論ではなく、技法の対象化・評価**
- **映画の形式を活用する技法**
 - 物理的媒体、再現方式、フレーム、音声、動きetc.
- **小津作品の技法に対する研究者の言説**
 - Bergala 「言表内容に先行する言表行為」
 - Bordwell 「規則に支配された小津の遊戯」
 - 同 「小津における可変要素に基づく話法は、主題化や記号の観点に立った場合よりも興味深く見える」

時期ごとのショット持続時間の推移



小津作品の史的展開

- (1) 第1期(サイレント前期1927～32年)『懺悔の刃』以降
- (2) 第2期(サイレント後期1933～36年)『東京の女』以降
 - 字幕ショットの急増、デクパーージュの整理、形式システム萌芽
- (3) 第3期(戦前トーキョー期1936～42年)『一人息子』以降
 - 持続時間の長大化、静的・判じ絵的画像、人物配置・画面構成
- (4) 第4期(戦後前期1949～53年)『晩春』以降
 - 『晩春』『麦秋』『東京物語』
 - 並置／反復、会話／動きの機能分化によるシステムの均質化
- (5) 第5期(戦後後期1958～62年)『彼岸花』以降
 - 『彼岸花』『秋日和』『秋刀魚の味』
 - カラー化、さらなる機能分化

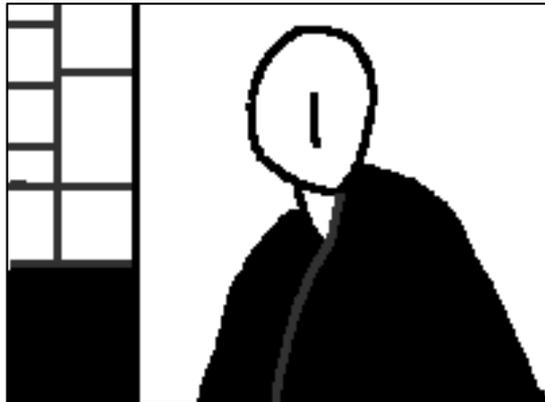
形式システムの定義

- ・ 表現の動的側面のメカニズムを捉える
- ・ 機能・機能関係を中心にみた構造の全体概念
- ・ ショット: 被写体とカメラ位置に相互規定されたもの
- ・ 属性: 距離・方向・角度・高さ・動き・焦点など
- ・ フレーム: ショット構造を最も強く規定する
- ・ モード: 機能やパターンにより識別できる連合
- ・ 距離の段階設定

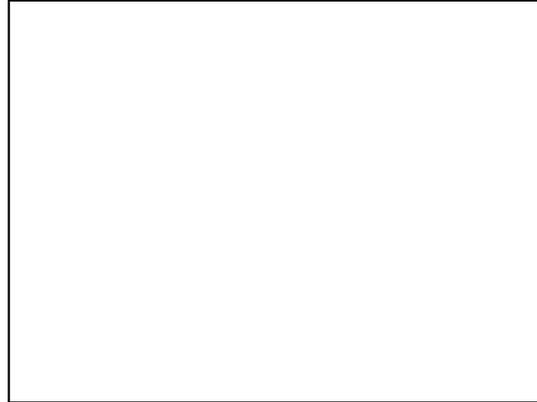
小津作品の形式システム

- **映画的諸技法使用の強い制限**
- **構成の著しい規則化：要素技法の組織化運用**
 - カメラの低位置固定撮影
 - 被写体に対するカメラの正面性
 - 同一カメラ位置の反復使用
 - カメラ方向の180度、90度単位での跳躍的転換
 - 時間を省略しないショット分節
 - 並置／反復、会話／動きの機能分化

室内空間における距離設定



上半身



立像七分身



坐像全身



全室(遠)



全室(近)

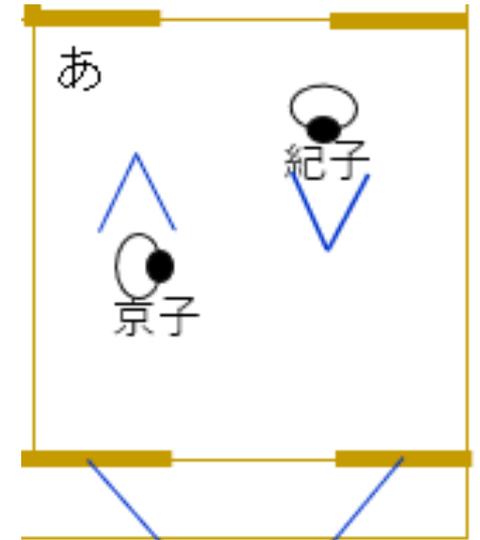
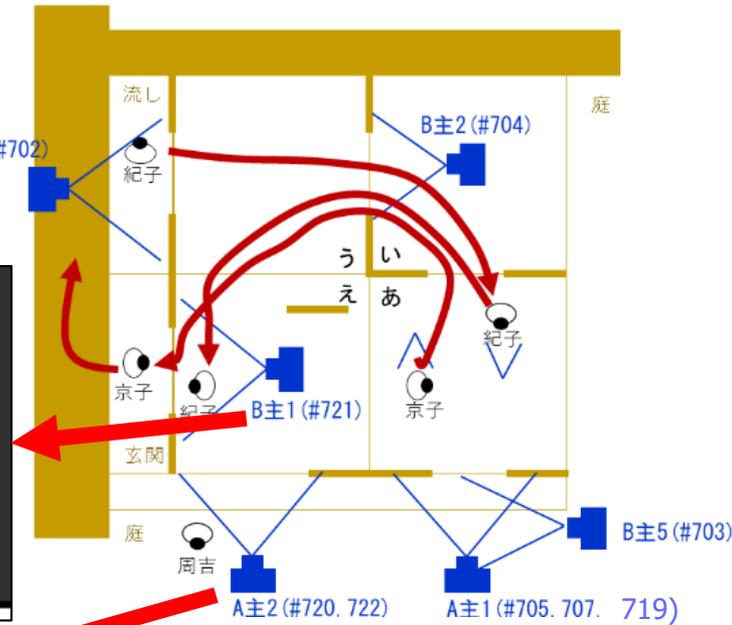


立像全身

ショット間の構成システム

『東京物語』

第32シーケンス
(#702~722)
のカメラ位置



A主1 (#705, 707, 719)

『晩春』 動態と反復のモード

- **第3期→第4期の大幅な転換**
 - 静的・判じ絵的画像→動きに即した場面の多用
 - 第1seq「茶の湯」立居振舞の反復進行、自然界のそよぎ
 - 第3seq「電車通勤」
 - 第7seq「サイクリング」
 - 第17seq「能楽堂」
 - 室内の出入り・玄関の出入りの連鎖・反復モード
 - ・ 日常シーンの反復、人物の移動に即した連鎖構成

『晩春』 玄関の出入りの反復10回

- ①紀子(帰宅) → ②紀子(帰宅) → ③周吉(帰宅) →
④紀子(帰宅) → ⑤紀子(帰宅) → ⑥紀子(外出) →
⑦紀子(帰宅) → ⑧紀子(帰宅) → ⑨嫁ぐ(外出) →
⑩周吉(帰宅)
- ショット構成の規定: カメラの範列、ショット転換の順列
- 人物の動き、音の連続、オフスクリーン (FrOut-FrIn) の頻繁な交替
- <家の表> 人物が来る(続いてFr0) → 無人状態 → 板子戸の開閉音 → 無人・無音状態 → <玄関> 無人状態 → 扉の開閉音 → 無人・無音状態 → (Fr1) 玄関を上がる人物 (Fr0) → 無人状態 → <座敷> 無人状態 → 座敷に入る人物…

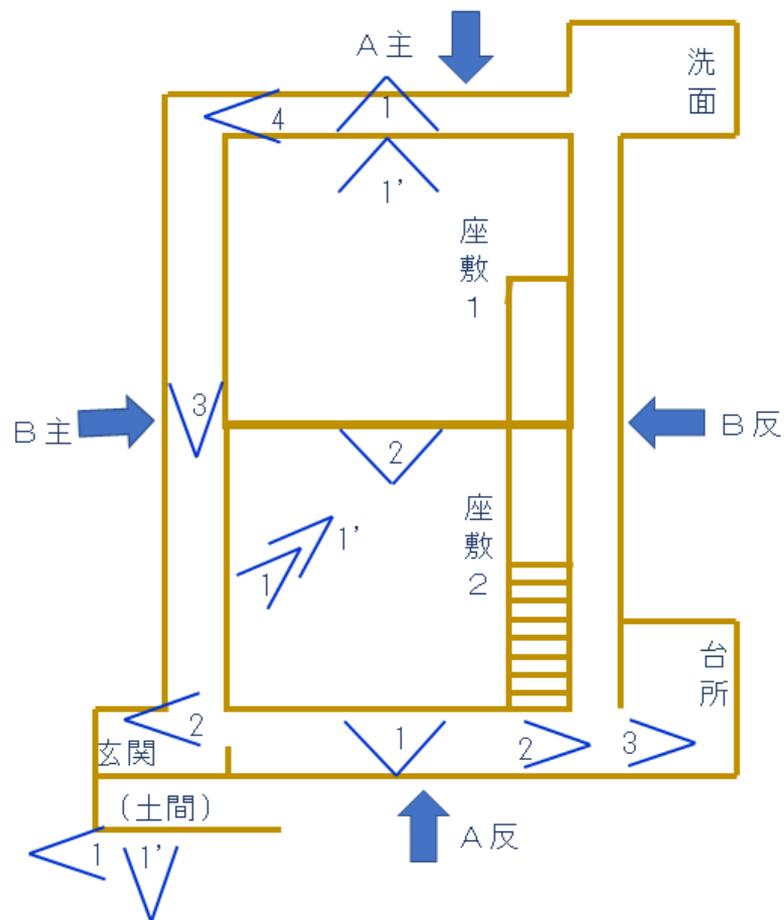
『麦秋』 動態と反復のモード

第1 seq「間宮家の朝の風景」

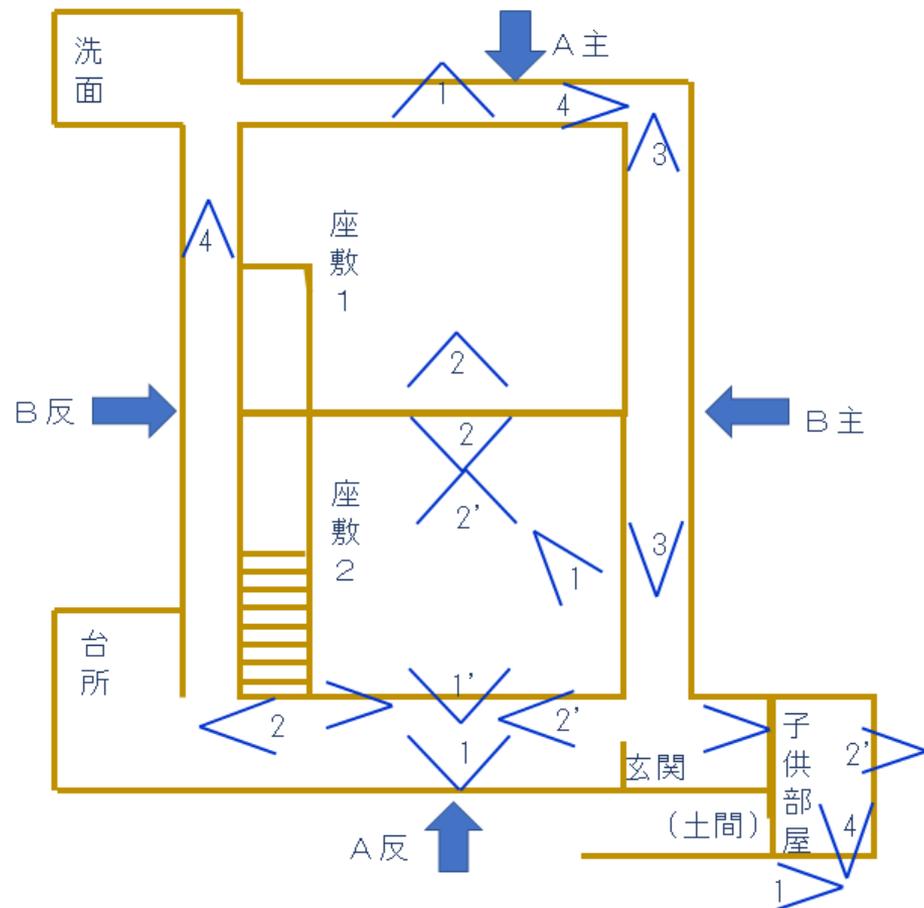
- ・ 人物の動き・出入りで構成された動的シーケンス
- ・ 絶えざる出入り・転換・オフスクリーンの交替
 - ジャン・ルノワール『ゲームの規則』を凌駕？

『晩春』『麦秋』の鏡像構造

『晩春』 曾宮家・階下

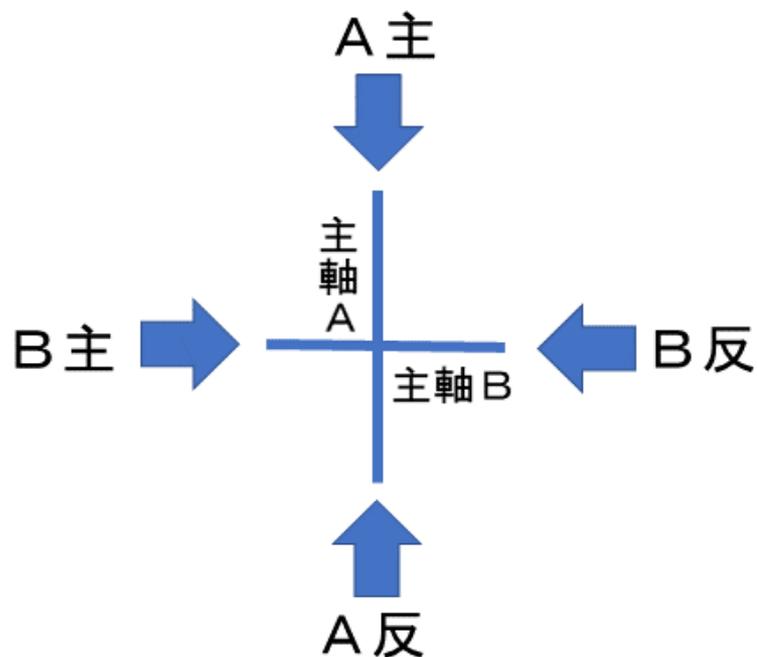


『麦秋』 間宮家・階下



『晩春』『麦秋』室内・カメラ位置

カメラ位置決定の基準



カメラ位置分類の段階

- ◆ A : 座敷系 (タテ系列)
B : 通路系 (ヨコ系列)
- ◆ 主 : 主方向
反 : 反対方向 (ただし B 反 1 は例外)
- ◆ 主軸上に並ぶカメラ (主軸系) :
A 主 1、2、A 反 1、2
B 主 2、3、B 反 2、3
- ◆ 主軸上に並ぶカメラ (傍軸系) :
A 主 3、4、A 反 3
B 主 1、4 (B 反 1 のみ例外)
- ◆ ダッシュ付きの番号は主位置からはずれた補完的位置のカメラを表す。

カメラ位置別に見たショット数

『晩春』
曾宮家のシーン

階下 A系	39
B系	36
階上	20
総数	95

1	A主1	18	29	29	29
2	A主1'	11			
3	A反1	1	1	7	10
4	A反2	6	6		
5	A反3	3	3	3	
6	B主1	9	10	10	17
7	B主1'	1			
8	B主2	6	6	6	
9	B主4	1	1	1	
10	B反1	6	7	12	19
11	B反1'	1			
12	B反2	5	5		
13	B反3	7	7	7	
14	上A主1	14	14	14	14
15	上A反1	3	3	3	6
16	上A反2	3	3	3	

『麦秋』
間宮家のシーン

階下 A系	73
B系	58
階上	25
総数	156

1	A主1	9	9	28	31
2	A主2	18	19		
3	A主2'	1			
4	A主3	1	1	3	
5	A主4	2	2		
6	A反1	13	28	39	42
7	A反1'	15			
8	A反2	11	11		
9	A反3	2	2	3	
10	A反4	1	1		
11	B主1	4	4	4	40
12	B主2	22	27	32	
13	B主2'	5			
14	B主3	5	5		
15	B主4	4	4	4	
16	B反1	8	8	18	18
17	B反2	5	10		
18	B反2'	5			
19	上A主1	9	14	14	14
20	上A主1'	5			
21	上A反1	1	6	6	11
22	上A反1'	5			
23	上A反2	5	5	5	

『東京物語』第3期モードの再帰 繰り返される老夫婦の<かたち>

老夫婦・人物配置の基本形



基本形の繰り返し



基本形の崩れ1



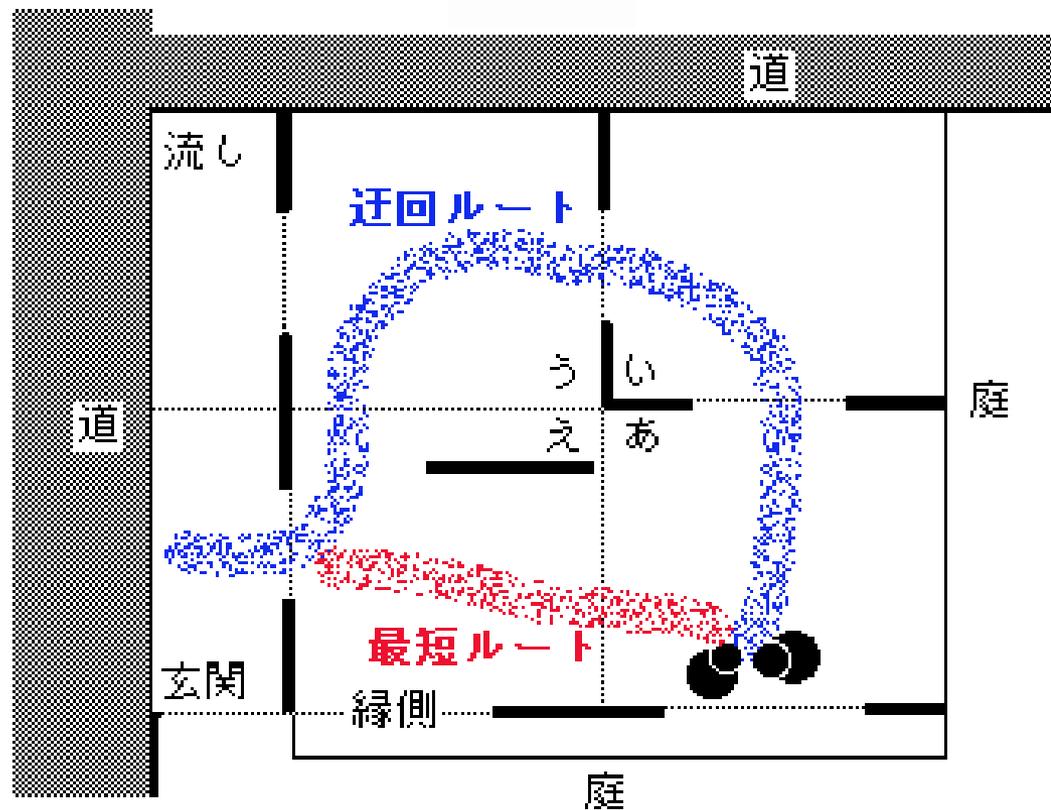
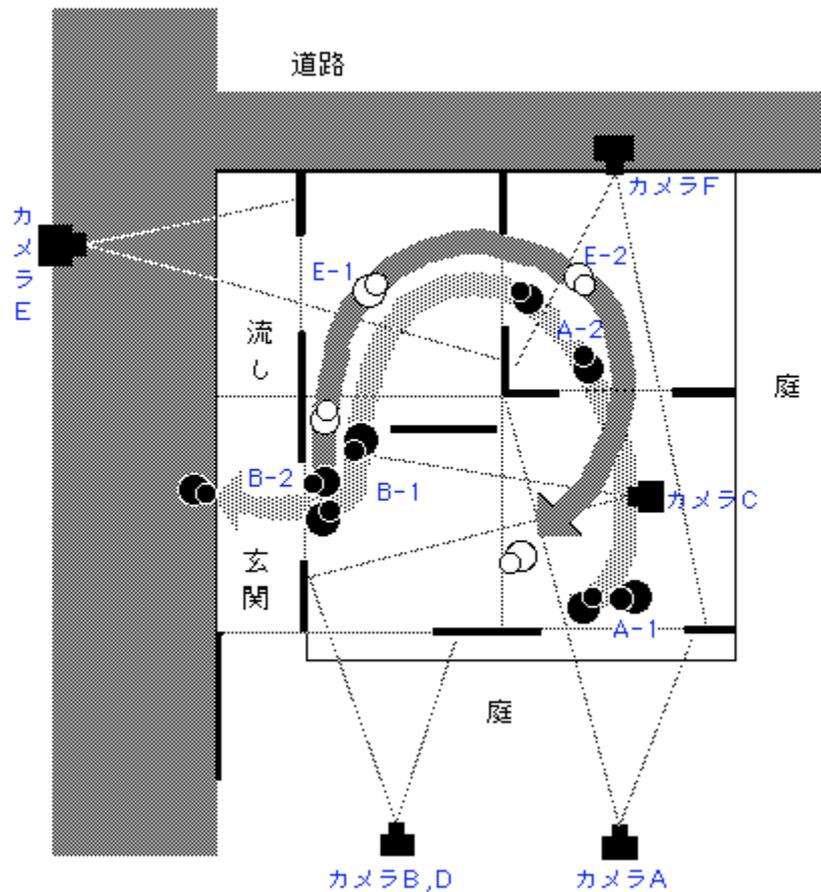
基本形の崩れ2



基本形の崩れ3(欠落)



『東京物語』第32seq「尾道の家」



『東京物語』第32「尾道の家」構成

#705



#720

-2



#722



#707



#720

-3



#723



#720

-1



#721



#724



映像表現システムの独自性

- 映画形式に内在する機能を外在化
- 組織的に展開させた特異なシステム
- 3作品の特色:時空間の構造化
- 時間軸に沿った動態の連鎖・反復構成の機能化に向けた編成
- いわゆる「映画の文法」ではない

映画創作から外在化している技法

技法とは バッハの音楽技法の例

- **技法はアーティストの属性ではない**
- **バッハの技法**
 - 対位法
 - 和声法
- **小津の模倣「小津ごっこ」は「表層の似せ方」**
 - 『小さいうち』山田洋次監督 2014
 - 『変態家族 兄貴の嫁さん』周防正行監督 1984
- **映画の原初的な「動態」「動的」表現技法**
 - **D.W.グリフィス監督のシーン内分節の技法が酷似**
 - “The Lonedale Operator” (1911) など
 - 最後の作品”Struggle (1932)まで一貫して変わらない技法
 - 人物の動きに連動した部屋・カメラ位置の転換・連鎖
 - 時間を省略しない動きの連続、アクションカットの多用

まとめ：形式システムの意味づけ

- ・ **時間の絶対的な流れの感覚**
 - 数多いショット転換、入念に整えられる人物の動き
 - 動きの方向と部屋の位置関係を見極められない
 - 位置を見極めようとすると”めまい”が起きる
 - かたちとして整えられた動きの反復・連鎖
 - 体験により抽象的に意味づけられることが目的ではないか
- ・ **物語の意味を超え、必然として受け入れないといけない時間を体験させる映画**
- ・ **小津「《輪廻》というか《無常》というか、そういうものを描きたいと思った。」**（『キネマ旬報』1960年12月増刊号）
- ・ 『晩春』→方法論的發展（日常性の衣で抽象を隠す）
『麦秋』→形式が隠されず突出した『東京物語』

本研究の補足・連絡先

- ・ ウェブサイト『小津安二郎・映画の時空間』(1997～)
 - <https://www.mmdb.net/maekawa/ozu/ja/>
- ・ 前川道博ホームページ(メディア環境学)
 - <https://www.mmdb.net/maekawa/>
- ・ 連絡先(前川道博):
 - TEL 090-2270-5074
 - [maekawa◆nagano.ac.jp](mailto:maekawa@nagano.ac.jp) ◆は@に置き換えてください
 - 〒386-1298 上田市下之郷658-1 長野大学